

2011年3月期 第3四半期決算説明会

質疑応答

Q. ソフトウェア開発の受注高が回復に転じ、今後の受注動向においては大型案件もあり期待できるとのことですが、具体的な案件の数や規模、業種等について教えてください。

A. 受注高に関しては、金額的にはそれほど大きな伸びではありませんが、金融・流通・製造業等の幅広い業種において増加しつつあります。また、既存顧客群の案件が比較的多い状況にあります。尚、開発領域については、基幹系システムの再構築案件が多くなっており、会計・人事システムに限らず販売管理等、業種固有の基幹システムの考え方に基づいて作るアプリケーションに対するニーズが高まっている状況にあります。

Q. 御社はソフトウェア開発の受注高好調を始め業績が回復しているようですが、当四半期決算では同業界でも各社業績にばらつきがあるようです。御社業績の回復傾向の理由についてご説明いただけますでしょうか。

A. まず始めに、弊社業績に関しては前年同期と較べて回復しているものの、厳しい年度であった昨年との比較であり、戻り幅もまだ若干という程度で他社と較べても大きな差はないと理解しております。

現実の数字の戻り具合については、SAP 案件や金融業向け案件に例示されますが、上期に数字として現れると期初想定していた幾つかの中型案件が、第3四半期によりやく数字として現れはじめたと考えております。従前より注力していた案件が長い検討期間を経て具体化しつつある状況とご理解ください。

Q. ERP (SAP、Oracle、ProActive) の実績を教えてください。

A. 第3四半期累計 (単位：億円)

	09年度	10年度
SAP	49	53
Oracle	18	20
<u>ProActive</u>	<u>44</u>	<u>28</u>
合計	112	101

尚、ProActive については、第4四半期に昨年度との差分を一部とり戻せるものと見込んでおります。

Q. 不採算案件による引当金が約4億円(第3四半期累計)計上されています。従前の説明会で述べられた同一案件の追加引当とのことですが、本案件は収束に向かっているのでしょうか。また、引当についても終わっているという理解で宜しいでしょうか。

A. 当該不採算案件については、システム構築の完了、システム稼働に向けた予定が固まりつつある状況であり、収束に向かっていると考えております。また、引当につきましても現時点で考え得るものについては行っております。

Q. オフィス移転関連費用について販管費が前期比 1.4 億円増と期初予想の額に達していませんが、費用計上は第 3 四半期で終了という理解で宜しいでしょうか。

A. 販管費については、第 4 四半期にも一部計上するものがありますが、期初予想した 4~5 億円には達しない状況と考えております。

尚、特別損失については、移転関連費用 4.7 億円（第 3 四半期累計）を計上しており、こちらはほぼ期初予想通りとなっております。

Q. CSK との業務提携・資本提携について、進捗の状況を教えてください。

A. 現在、業務提携委員会において、業務提携の検討を進めており、幾つかの具体的な案件については共同提案を行っている状況とご理解ください。資本提携についても検討は続けておりますが、本日現在ご説明申し上げるべきことはないと考えております。

以上